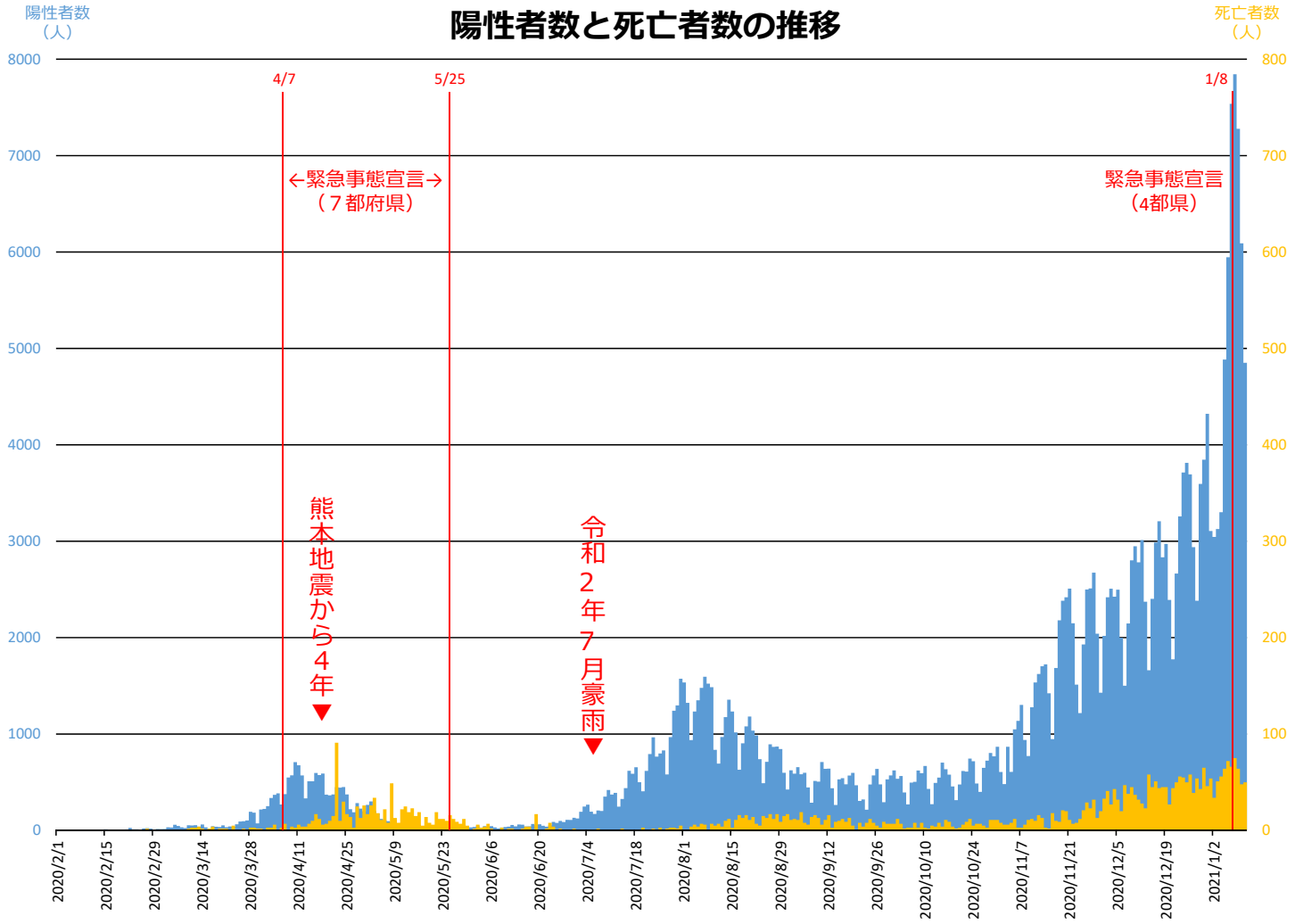
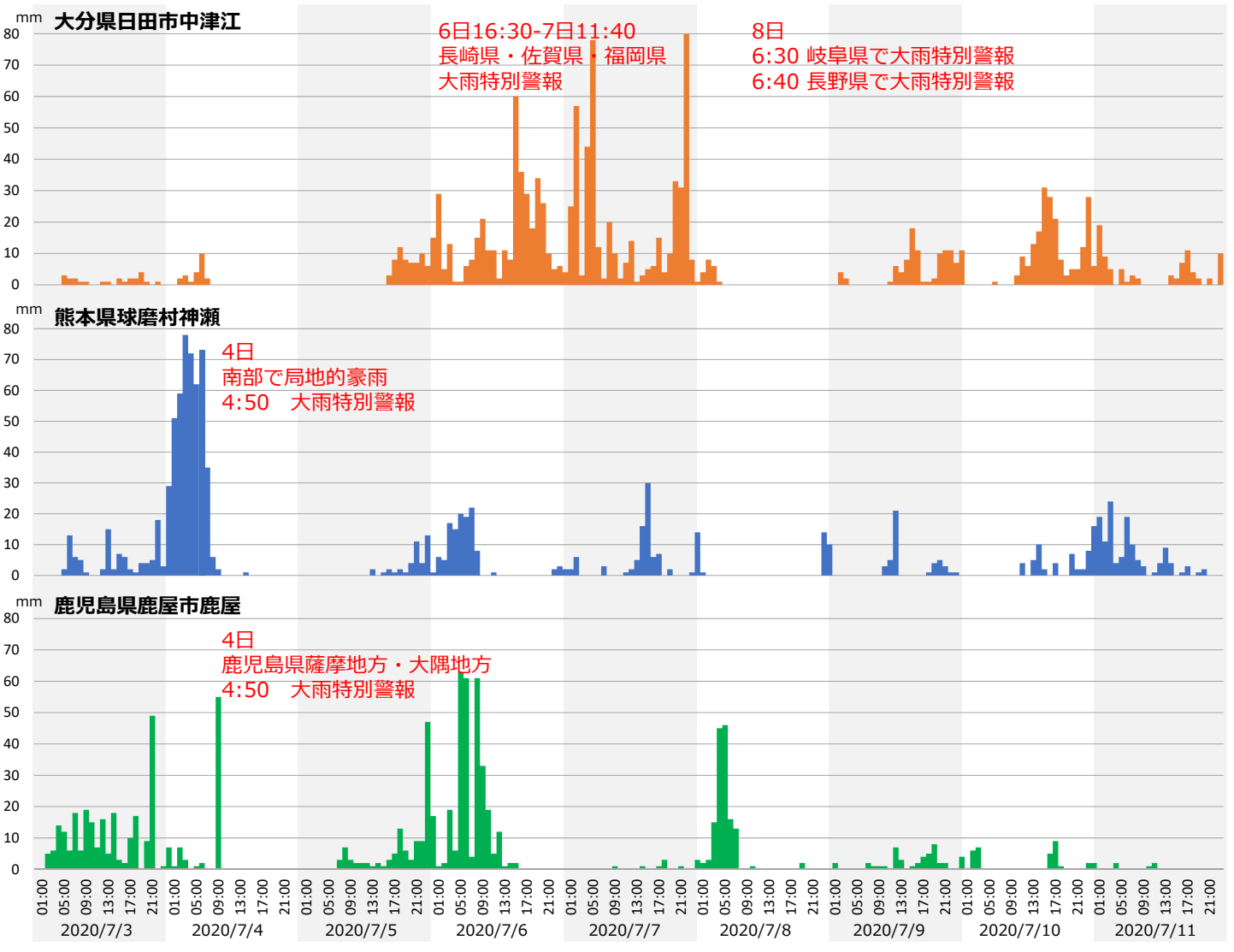
熊本豪雨被災地の現状と課題
～熊本県八代市坂本町を対象として～

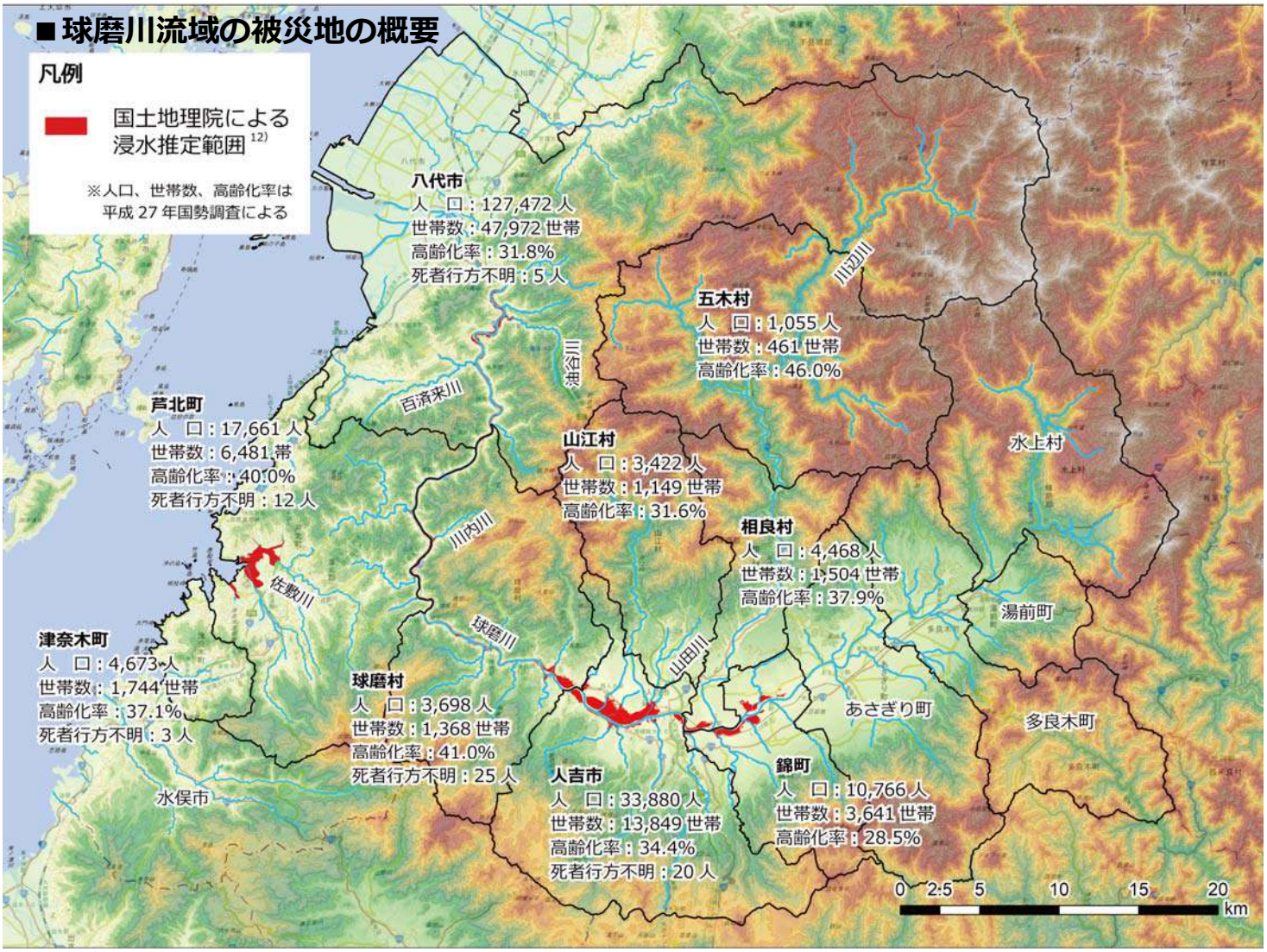
熊本県立大学環境共生学部　柴田　祐

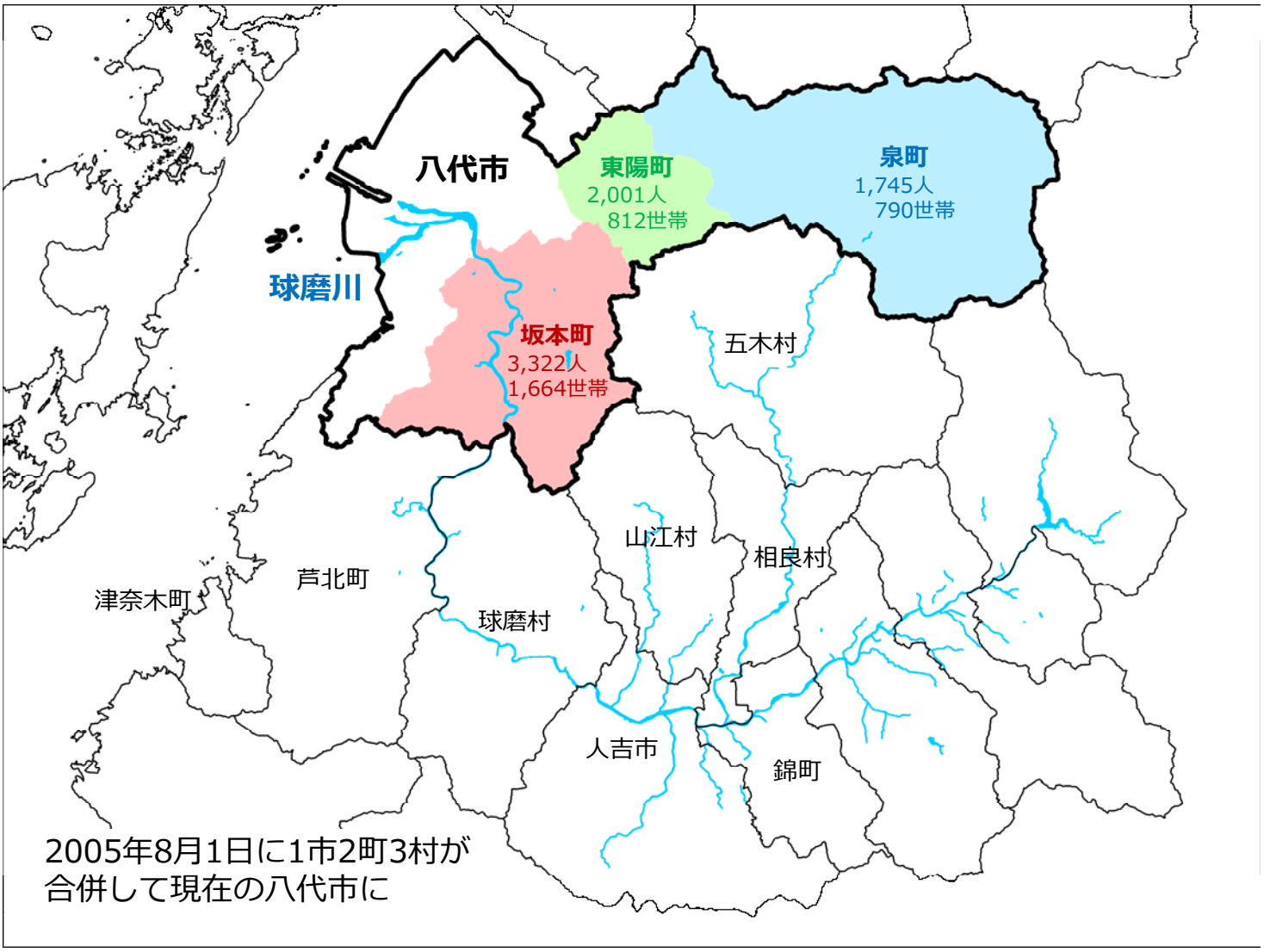
陽性者数と死亡者数の推移



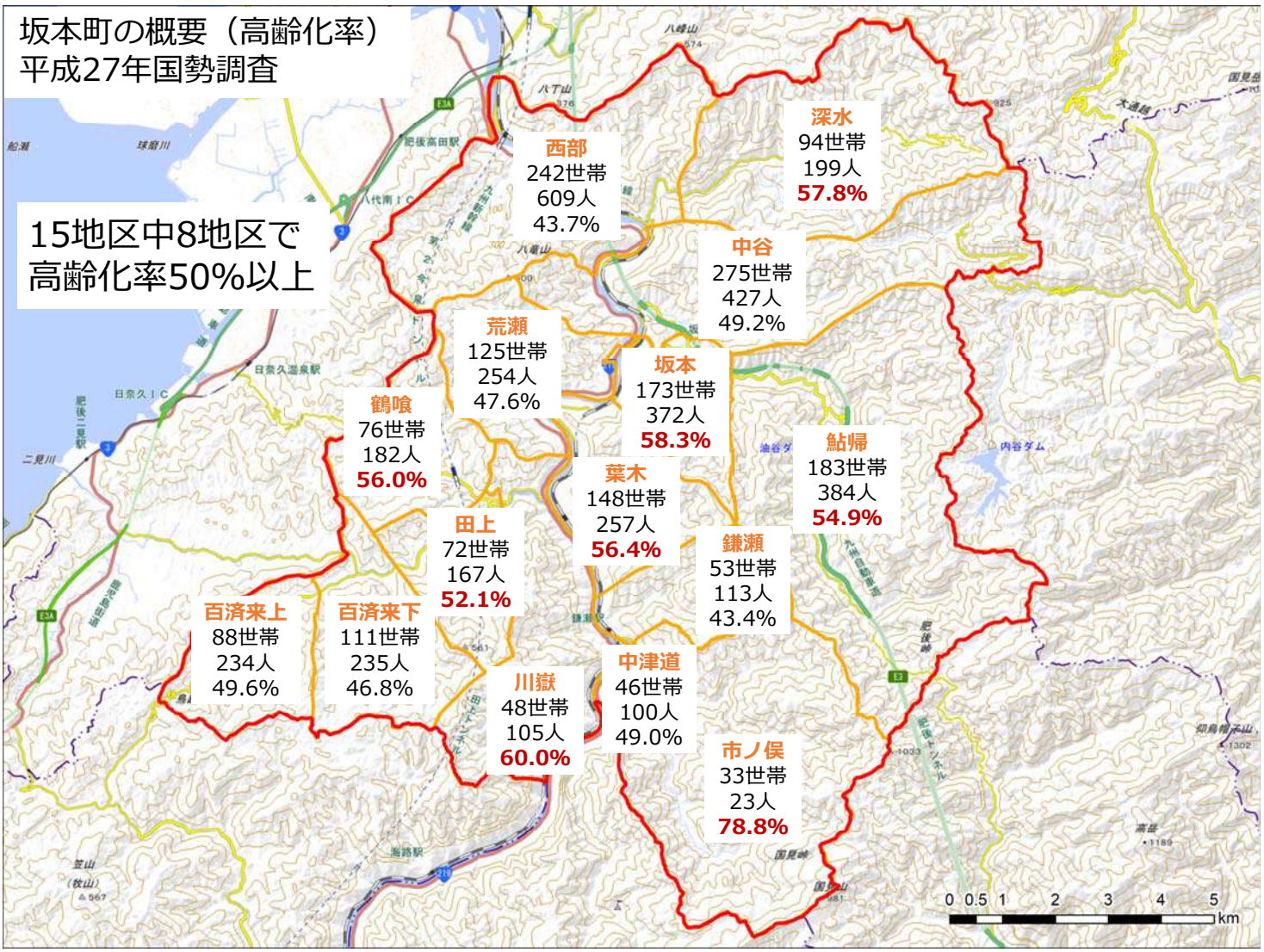
※厚生労働省 新型コロナウイルス感染症 オープンデータより



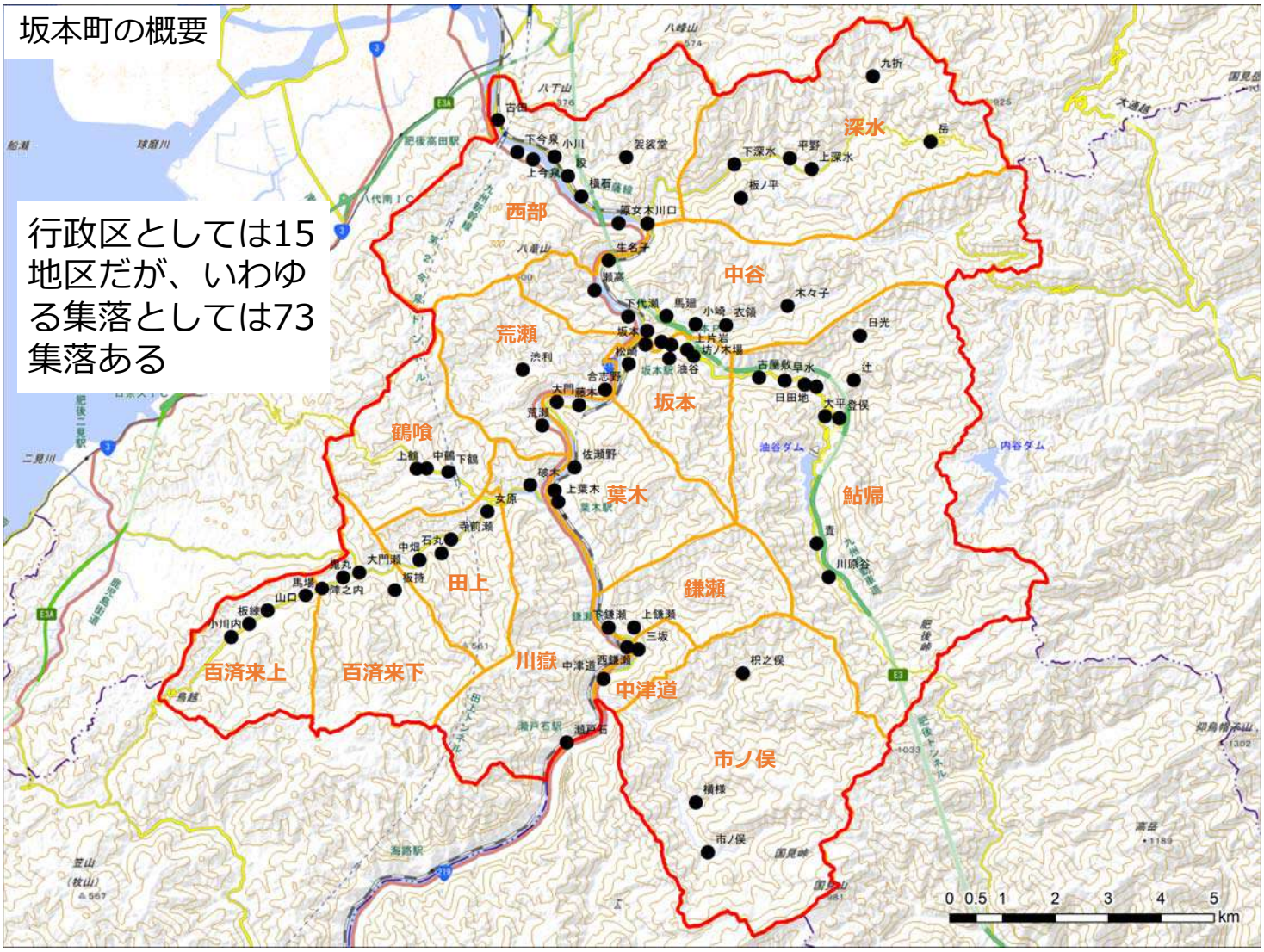

■球磨川流域の被災地の概要
凡例
国土地理院による浸水推定範囲 12)
※人口、世帯数、高齢化率は平成 27 年国勢調査による
八代市
人　口：127,472 人
世帯数：47,972 世帯
高齢化率：31.8%
死者行方不明：5 人
五木村
人　口：1,055 人
世帯数：461 世帯
高齢化率：46.0%
川辺川
三谷川
百済来川
芦北町
人　口：17,661 人
世帯数：6,481 帯
高齢化率：40.0%
死者行方不明：12 人
山江村
人　口：3,422 人
世帯数：1,149 世帯
高齢化率：31.6%
水上村
川内川
相良村
人　口：4,468 人
世帯数：1,504 世帯
高齢化率：37.9%
佐敷川
湯前町
球磨川
山田川
津奈木町
人　口：4,673 人
世帯数：1,744 世帯
高齢化率：37.1%
死者行方不明：3 人
球磨村
人　口：3,698 人
世帯数：1,368 世帯
高齢化率：41.0%
死者行方不明：25 人
あさぎり町
多良木町
人吉市
人　口：33,880 人
世帯数：13,849 世帯
高齢化率：34.4%
死者行方不明：20 人
錦町
人　口：10,766 人
世帯数：3,641 世帯
高齢化率：28.5%
水俣市
0 2.5 5 10 15 20 km

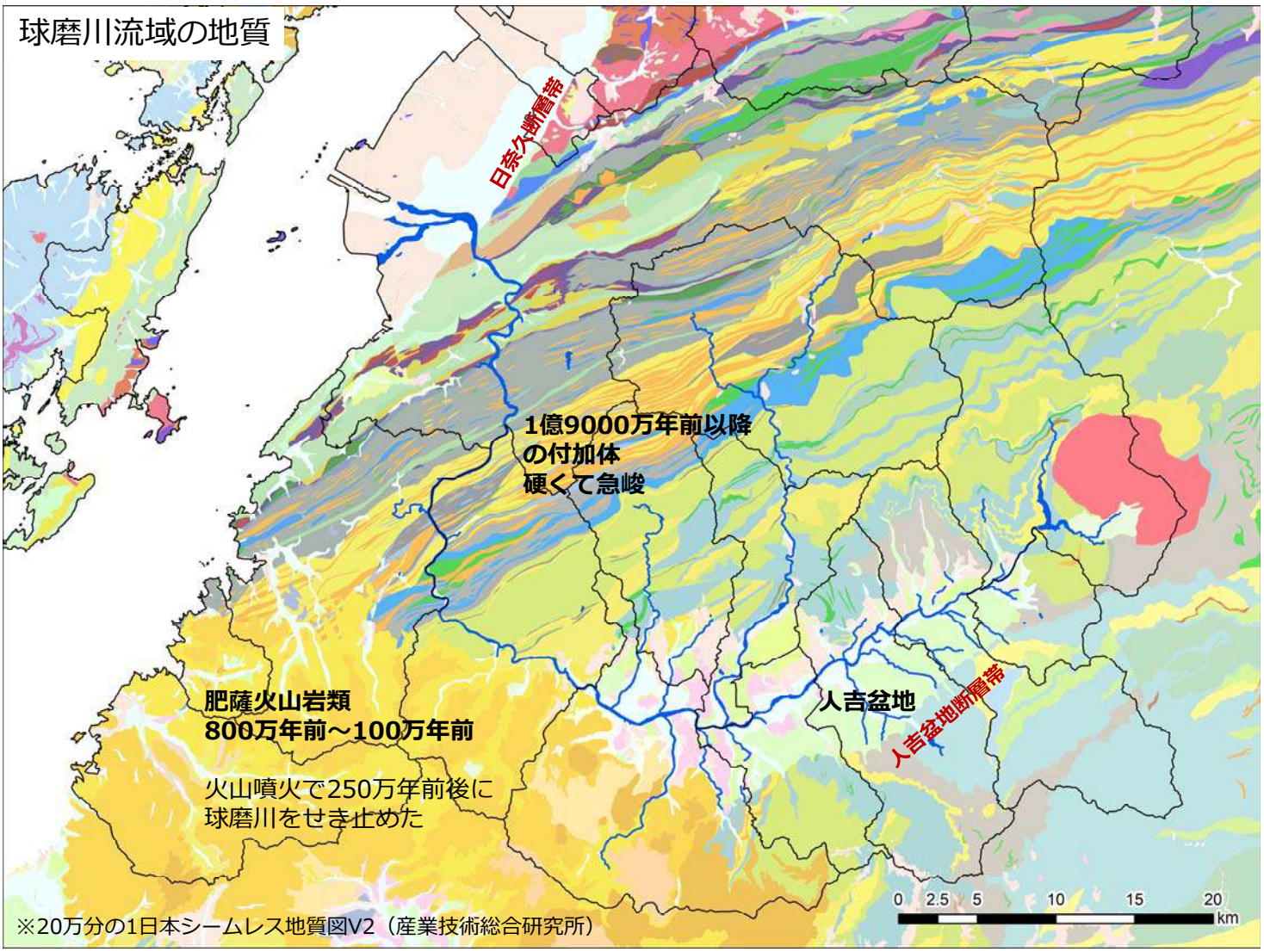

八代市
東陽町
2,001人
812世帯
泉町
1,745人
790世帯
球磨川
坂本町
3,322人
1,664世帯
五木村
山江村
相良村
芦北町
津奈木町
球磨村
人吉市
錦町
2005年8月1日に1市2町3村が
合併して現在の八代市に

坂本町の概要（高齢化率）
平成27年国勢調査



坂本町の概要




球磨川流域の地質
日奈久断層帯
1億9000万年前以降
の付加体
硬くて急峻
肥薩火山岩類
800万年前～100万年前
火山噴火で250万年前後に
球磨川をせき止めた
人吉盆地
人吉盆地断層帯
0 2.5 5 10 15 20
km
※20万分の1日本シームレス地質図V2（産業技術総合研究所）

2020年7月4日（土）6:46撮影

名称		令和2年7月豪雨
死者		65人
不明者		2人
重傷者		2人
軽傷者		35人
住家被害	全壊	1,491棟
	半壊	3,096棟
	床上浸水	346棟
	床下浸水	564棟
	一部損壊	1,927棟
非住家被害		2,221棟
罹災世帯		5,488世帯
罹災者		11,919人
避難所（最大）		37市町村211ヶ所（7月11日17時）
避難者（最大）		864世帯2,449人（7月10日19時）
土木施設被害	河川	165河川832ヶ所
	砂防	364ヶ所
	道路	85路線516ヶ所
	橋梁	34ヶ所（うち16ヶ所流失）
	土砂災害	220ヶ所
河川内に堆積した土砂	国管理	推定約125万㎥
	県管理	推定約107万㎥
農地被害		612.6ha
山腹崩壊		761ヶ所
孤立集落		166集落
被害額	建築物	1,668億円
	公共土木施設	1,452億円
	農林水産関係	1,019億円

- 線状降水帯の長期停滞により７月3日～4日で約１月分（7月平均）の降水量
- 昭和40年洪水や昭和57年洪水を上回る、観測開始以来最大の雨量・水位を記録

2.(2)球磨川流域の被災地の概要

写真- 1　豪雨翌日の人吉市中心市街地の様子（7/5撮影）　この地区では2階の床上浸水，20～30cm泥が堆積

2.(2)球磨川流域の被災地の概要

写真- 2　球磨村神瀬地区の様子（7/23撮影）　支川の川内川の上流から流れてきた岩，石，礫，砂が堆積

2.(2)球磨川流域の被災地の概要

写真- 3　芦北町田川地区の斜面崩壊の様子（11/27撮影）　風化した砂岩が山頂付近から崩壊

2.(2)球磨川流域の被災地の概要

写真- 4　球磨川沿いの県道158号とJR肥薩線の崩壊（7/11撮影）　上流の鎌瀬橋も流出しこの間の集落が孤立

3.八代市坂本町における被害の状況
(3)本川沿いの被害の状況

写真- 5　本川沿いの坂本町下鎌瀬の様子（7/13撮影）　逃げる準備をしている間にも水が上がってきた

3.八代市坂本町における被害の状況
(3)本川沿いの被害の状況

本川沿いの下鎌瀬の様子（7/13撮影）　強い流れにより基礎ごと家屋が流失している

3.八代市坂本町における被害の状況
(3)本川沿いの被害の状況

本川沿いの下鎌瀬の様子（7/13撮影）　孤立し高台の被災していない住宅で5日間を過ごした

3.八代市坂本町における被害の状況

写真- 6　本川沿いの坂本町坂本駅前の様子（11/28撮影）　昭和40年洪水の浸水深を大きく上回る浸水

3. 八代市坂本町における被害の状況
（4）支川の合流点の被害の状況

3.八代市坂本町における被害の状況
（4）支川の合流点の被害の状況

写真- 7　本川と支川の合流点に位置する片岩の様子（7/19撮影）　鳥居上部の「貫」「神額」まで浸水

3.八代市坂本町における被害の状況
（4）支川の合流点の被害の状況

本川と支川の合流点に位置する片岩の様子（7/19撮影）　ようやく社協のボランティアも入り始めた

3.八代市坂本町における被害の状況
（5）支川沿いの被害の状況

3.八代市坂本町における被害の状況
（5）支川沿いの被害の状況

写真- 8　岩石礫によって閉塞した支々川の陣之内川（7/13撮影）　上流から岩，石，礫が河道内に堆積

3.八代市坂本町における被害の状況
（5）支川沿いの被害の状況

写真- 8　岩石礫によって閉塞した支々川の陣之内川（7/13撮影）　支々川沿いの道路に岩，石，礫が堆積

3.八代市坂本町における被害の状況
（5）支川沿いの被害の状況

写真- 8　岩石礫によって閉塞した支々川の陣之内川（7/13撮影）　支々川沿いの道路に岩，石，礫が堆積

3.八代市坂本町における被害の状況

（6）農地の被害

写真- 9　土石の侵入による農地の被害（8/2撮影）　百済来川沿いの至る所で越流、洗掘しながら農地を流下

3.八代市坂本町における被害の状況

（6）農地の被害

支々川の板持川沿いの農地が土砂で埋まっている（8/2撮影）

4.応急復旧期の特徴
（1）被災者による様々な支援活動の展開

写真- 10　支援物資の配付拠点となっている商店（10/10撮影）　被災者同士の情報交換の場にもなっている

4.応急復旧期の特徴
（1）被災者による様々な支援活動の展開

写真- 11　様々なイベントの会場となっている道の駅（11/23撮影）　住民同士が顔を合わせるきっかけに

4.応急復旧期の特徴

（2）支援団体のネットワークの形成

※八代市社会福祉協議会Facebookより

写真- 12　坂本町支援団体連絡会議の様子　支援団体同士の情報交換の場

5. 復興に向けた視点

情報交換，話し合いの場が必要

- ある集落では，災害をきっかけに， 40世帯のうち14世帯が既に転出を決め，5世帯が検討中
- 高齢者は元の場所で再建したい　⇔　息子世代は反対する場合も

- 住まいの再建は個人的な問題であるが，高齢化率が既に50%を超えている坂本町では，個人の問題として留めていては解決にはつながらない
- 個人の問題を地域の問題として共有し，地域のこれからについて**住民同士で情報交換，話し合いの場が必要**

ピンチをチャンスに

- 人口が減り，高齢化が進む中での被災とそこからの復興は，被災地全体に共通する大きな課題
- ハード整備が議論の中心となることが多いと考えられるが，何のためのハード整備かを考えることが必要
- **ハード整備とソフトの支援を両輪**として復興を進めることが重要
- 熊本地震など，過去の災害の教訓を踏まえながら坂本町らしい，さらにいえば球磨川流域らしいハードとソフトの両輪のあり方